開校準備委員会便り No.1

～魅力ある学校づくりに向けて～

R4.11.15

開校準備委員会

令和 6 年度からの施設分離型義務教育学校開校に向けて準備を進めているところです。現在、各小委員会からの報告を受けて、開校準備委員会で協議を行っています。今回、「学年段階の区切り」について、開校準備委員会で案がまとまりましたので、みなさまにお知らせします。ご意見・ご感想がありましたら、所属の学校園にお問い合わせてください。

義務教育学校の学年段階の区切りについて

義務教育９年間を小学校は６年間、中学校は３年間という６―３制の区切りとしていますが、義務教育学校では、９年間を６－３制とは異なる区切り方を設定することができます。子どもたちの発達の早期化への対応や中１ギャップを緩和することができるため、義務教育学校では学年段階の区切りを柔軟に設定する取組が広く行われています。

区切りの設定は、厳密な定義に基づくものというよりは、子どもの実態や育てたい子ども像を踏まえて、工夫して設定するものと言われています。

そこで、10/27（木）グランドデザイン小委員会、11/8（火）臨時開校準備委員会が開かれ、先進校視察で分かったメリット・デメリットをもとに、どのような区切りにしていくべきなのか話し合われました。主なメリット・デメリットは次のとおりです。

区切り	生活拠点	メリット	デメリット
6-3	1～6 年 →昭和小 7～9 年 →昭和中	・混乱が少ない ・児童生徒の負担が少ない	・変化が少なく、義務教育学校としての意識がなくなる ・特色がない
4-2-3			
4-3-2	1～4 年 →昭和小 5～9 年 →昭和中	・発達段階を考慮できる	・4 年生が自立したリーダーになるのは難しい。 ・中学校の普通・特別教室が不足する。
4-5			
5-4	1～5 年 →昭和小 6～9 年 →昭和中	・5 年生、7 年生の成長が期待できる ・中 1 ギャップ緩和 ・後期課程（6～9 年生）4 年間の教育活動の充実	・6 年生の負担 ・行事の大幅な変更の可能性あり ・手本になる上学年（6 年生）がいなくなる

協議の結果、小委員会・開校準備委員会としては、**5－4制**がよいという案にまとまりました。1番多かった理由としては、「児童生徒の成長が期待できる。」というものでした。その他にも、「5－4に区切ることによって、学校に特色を出せる。」「今の子どもの発達が変化し、6－3制が難しくなってきている。」などがありました。

また、「幼稚園教育を含めることで、現在行っている五つ星学園の取組を継続、発展し、特色ある教育活動ができるのではないか。」という意見があり、幼稚園を含めた**3－5－4制**がよいという案にまとまりました。

今後、この案を教育委員会に提案し、決定していくことになります。今後も開校準備委員会でまとまったことをみなさまにお知らせしていきたいと思います。